

## 審議の対象とした番組

関西テレビの『スーパーニュースアンカー』は、平日の午後4時48分から午後7時まで放送されているニュース番組である。同番組は2012年11月30日、大阪市職員の「兼業疑惑」を取り上げ、テレビ局に情報を提供した人物のインタビューを「モザイク処理」と「ボイスチェンジ」で紹介した。音声は情報提供者のものだったが、映像での出演を拒否したため、モザイクの後ろに映っていたのは情報提供者ではなく、取材スタッフだった。ところがこの事実は、2013年3月13日に新聞報道されるまで、3か月余りも公表されていなかったのである。

BPO放送倫理検証委員会は、番組の後半（午後6時台）で約9分30秒にわたって放送された上記の特集企画（以下「本件放送」という）を審議の対象とすることを決めた。

\*

アンカーマンが「公務員は、地方公務員法により兼業を禁止されていますが、大阪市職員の中にはこれに違反して兼業している人物がいるとの情報が関西テレビに寄せられました」と切り出し、別のキャスターが「取材を進めると複数の職員が兼業している実態が明らかになりました」と紹介して、VTRがスタートする。

橋下市長が、職員の不祥事を撲滅することを目的とする大阪市服務規律刷新プロジェクトチームの会議で、「大阪市職員の服務規律をしっかりと守らせることが必要」「免職・懲戒処分もやっていく」と発言する。

記者が、「新幹線の新大阪駅で進められている改良工事に大阪市職員がかかわっている疑いが強いことが明らかになりました」と説明。夜間の新幹線工事現場の映像とともに、「この中のどこかに大阪市の職員がいるとみられます」とのナレーションが入る。

記者が入手した作業員の氏名と写真を大阪市職員名簿と照合したところ、小学校で管理作業員をしている職員に同姓同名の人物がいたとの紹介に続き、この職員Aへの直接取材が始まる。Aは「バレなかったらいいだろう。誰にも迷惑をかけなかったらいいだろう」と兼業を認める。教育委員会が事実を確認し、職員Aに懲戒処分を行う見通しであることが説明される。

映像が切り替わり、小部屋の中で、奥にインタビューする記者が、手前に頭から足先までモザイクがかかった人物が、それぞれいすに座っている。「さらに取材を進めた私たちは関係者から驚くべき情報を得ました」と情報提供者へのインタビューが始まる。

情報提供者は、ボイスチェンジされた声で、「古い人だったら10年以上ですね。夜の作業が終わってから寝ないで仕事に行ってると思うので、昼間の仕事は大変だと思います」と兼業の実態を語り、「バレても大丈夫みたいなことを、クビにはならないと

思う、と言っていた」と、兼業していることを隠そうともしない大阪市職員がいる状況を語った。このインタビューは約40秒だった。

再び夜間の工事現場が映り、モザイクがかかった人物がクローズアップされ、「この作業員もまた大阪市の職員とみられるひとりです」とのナレーションとともに、モザイク処理をした作業員の身分証が大写しになる。大阪市環境局の事業所に身分証と同姓同名の人物がいるとして、カメラは早朝の事業所の出勤風景を写すものの、職員の姿は確認できない。記者の取材に応じた事業所の所長が、身分証の人物が職員Bであることを認める。

放送日当日の単独取材に応じた橋下市長が、指摘された職員らについて調査結果を述べ、「完全にルール違反」「市民の皆さんに大変申し訳ない」と語る。

「収まる様子がない大阪市職員の不祥事。就任から1年を経た橋下市長はこれを払拭できるのでしょうか」とのナレーションでVTRが終了する。

最後に、スタジオのアンカーマンが、「いったい実態はどうなんだろうと。まだ氷山の一角なんじゃないか。今まで見て見ぬふりをしている同僚職員も含め、なかば公然と行われていたふしがありますね。橋下さんが市長になってから徹底的にやるんだという覚悟があるからこうしてあぶり出されてくるところがある。うみは出しきらなければいけないので、徹底的にやって欲しいと思います」と強い口調で本件放送を締めくくる。